



講座のアピールポイント

小児科は多くの専門分野があります。埼玉県東南部地域の拠点病院のために、地域の小児患者さんの診療を行っています。基礎研究は重要ですが、実際の診療に役立つ臨床研究を主に行っています。それぞれの専門分野の専門医主導で医局全体の協力のもと行っています。

さらに、医局だけでなく、獨協医科大学小児科、国立成育医療研究センター、国立精神神経センター、カリフォルニア大学サンディエゴ校の川崎病センターなどの国内外の多施設との共同研究に参加して幅広い分野で研究を行っています。

講座研究紹介

1. アレルギー

食物アレルギー患者は増加しています。乳幼児期をすぎると治る患者さんと治らない患者がありますが、治る機序は正確にわかっていません。その機序を解明することにより、早期に治す治療法を解明しようとしています。そのほか、アレルギーマーチに関する研究、魚アレルギーに関する研究、アナフィラキシーに関する研究、などを行っています。また、気管支喘息は治療薬の進歩により治療はよくなっていますが、未だ改善しない難治性の病態があります。その病態の解明についてもおこなっています。

2. 川崎病

川崎病発症の遺伝素因を解明する川崎病遺伝子コンソーシアムに関する研究、重要な合併症である冠動脈瘤症例のレジストリーとその治療に関する研究を行っています。

3. プラダーウィリー症候群

当科は世界でもっとも患者さんを多くみています。研究成果を多くの論文で発表しています。現在は、成長ホルモン療法と性ホルモン療法の体組成や骨密度への効果の検討、過剰染色体を伴う母性片親性ダイソミーの臨床症状の検討を行っています。

4. 神経

神経発達症患者の脳波を用いたてんかん性棘波の信号源推定の検討と先天奇形症候群における遺伝的要因の探索を行っています。

5. 救急疾患

当院でお亡くなりになったお子さんの原因を究明するために、日本小児救急医学研究会の調査研究に参加しています。